



## 保二小の矜恃

No. 9

西東京市立保谷第二小学校  
校長 神山 繁樹

## 勇気付け

道徳授業地区公開講座(496名来校)意見交換会(66名参加)に対するご意見ご感想ありがとうございます。かつて子供だった私たち。親、兄弟、教師、友達、地域の人から言われた一言や投げかけられた行為によって、勇気付けられたり、挫けさせられたり、喜んだり、落ち込んだりの繰り返しだったのでないでしょうか。

「あなたは(ときに“おまえは”)何回言ったら分かるの!」「本当にだめだね!」

例えば、このように大人から言われて、「よし、次、頑張るぞッ!」と子供が思うのなら“勇気付けられた”のであり、「私って……」ならば、“挫けさせられた”となります。

私たちが日々子供たちに伝えたいことは「あなたはだめな人間だ。」ということではなく、「生きていればいろいろあるけれど、その都度しっかりと考えて逞しく生き抜く人になってほしい。」ということです。

## 《勇気付け》

今の時代、子供にとっても大人にとっても、大切にしたい“魔法の言葉・手立て”だと考えています。

さて、ご多用の中、ご意見・ご感想に筆を執っていただきありがとうございます。大人になっても認められることは嬉しいもので、皆さんの言葉に勇気付けられ、「次」に向けてのパワーが漲りました。

皆さんのご期待に応えられるように自分も一層精進します。

最初に校長先生がおっしゃった「子供たちの気持ちになって授業を受ける」ことを親になると忘れていたとつくづく思いました。いつ指されるかドキドキするのは大人になっても同じなんだなあと思えました。

子供は毎日頑張っているのだと実感しました。私が子供の頃の道徳授業はただビデオを見て終わった感じで、いろいろな人の意見を聞いたり自分の意見を言ったりすることは少なかったと思います。

今回初めてお会いした方とお話しでき、いろいろな意見を聞くことができることを楽しいと思えました。

今後の授業参観での見方が変わり、家での会話が温かくなりますね。“学び”の楽しさに気付かれたところが凄いです!

とても楽しく学ばせていただき有意義な時間でした。改めて親として子供を育てる重大な責任を感じました。

「ブラッドレーの請求書」母親が0円と記入し伝えなかったのは「無償の愛」かなと思えました。家事に対しては労働への対価が発生しても分かるのですが、「親切にする」「看病」は0円ではなく、「愛情」ではないかなと違和感を感じました。

子供にはなるべく「あなたは大切な存在」ということを伝えるようにしています。自分自身を大切にできる人になってほしいです。そして、周りの人も大切にできるように。日常生活で子供を叱る際、つい感情的になって怒ってしまうことがあります。

I(愛)メッセージ、ぜひ実践してみます!!

“自分だったら”と客観的に見つめられるところが凄いです! I(愛)メッセージは、自分自身にも温かく響いてきますよ。

まず、親が子供に対してきちんとしたアドバイスができるかどうか、伝え方や自分自身も人として成長しなくてはと気付きました。何かあったとき、すぐ、あ〜だこ〜だ言うのではなく、ゆっくり気付くようにこちらもゆっくり向き合って一緒に考えていくことが大事だと思えました。親もいろいろな引き出しを多く持っていたいと思えました。子供の年齢に合った対応ができるように自分も勉強していきたいです。

親は常に子供の前を歩いていたいものです。皆さん(私も)若いから、まだまだ「老いては…」ではなく日々研鑽です!

久しぶりの学生気分で授業を受けられると、わくわくしました。

考えをまとめながら書き残したり、価値観や立場の違いがある中で他の方の考えを聞きながら新たな考え方の発見をしたりと、グループミーティングの後は、とても新鮮な気持ちになりました。

また、講座の資料で取り上げられていたお母さんのように、子供に考えさせられることができるような心のゆとりをもちたいなあとか、叱らずに諭すように子供に接することができたらお互いにハッピーだろうなあとか、日々の生活を内省することができました。

私も皆さんとの交流にワクワク。特に、対話している皆さんがどんどん笑顔になっていくのを見ていて仕合わせでした!

久しぶりに受ける授業に少し緊張しましたが、小学生の時は正直つまらなかった道徳の授業を人生初？楽しく受けることができました。自分の考えを書きしっかりと認識することの大切さ、対話を通して新しい発見をする楽しさを改めて認識しました。校長先生のワンポイント・アドバイス。かなり難しいですが少しだけ意識して子供を注意するときに気を付けられるよう頑張ります！！

分かっているけれど実践するのは難しいもの。でも、続けているとだんだん子供との対話が面白くなってきますよ！

一言…！楽しかったです！！時間帯、話すスピード、口調、笑顔。これら全部私にとって丁度良い、す〜っと心に入ってきました。子供たちもこんな授業の進め方なら安心できます。

「書くことは大事。それは自分の決断を記すこと。記憶するためでもある。」

「グループワーク。答えが合っている間違っているとか、ひとりで考えるのではなくいろいろな意見を聞いて自分の答えを振り返る。」等の言葉を改めて聞き、普段から子供にも伝えていることでしたが「校長先生もこう言っていたよ。」と、さらに家族で話し合うきっかけにもなりました。

イソップ物語も子供に話してみても私（親）とは違った意見を言う子供の感覚が新鮮でした。今回の道徳授業をお聞きし「答えは一つではない。」ということ、その通りだと思います。ワクワクしました。

子供も大人もワクワクできる小学校で嬉しいです。

新しい学習指導要領で目指している“主体的・対話的で深い学び”とは、大人も新鮮で心がワクワクするものなのですね！

校長先生自ら積極的にプレゼンする姿はとても理想的で良かったと感じました。現代の校長はこういう姿で在るべきと感じました。ぜひ、毎年継続的に、校長先生、副校長先生と手分けして親や地域住民にモラルを考える時間を与え続けてほしいと思います。

このような会は、親同士、地域住民も含めて少なからず関係構築ができて地域の犯罪抑止力に繋がったり、家庭内暴力などの悲劇の減少、学校内のいじめ低下に繋がったりしていくと考えます。

また、現役の校長・副校長先生が継続的に続ける事から熱意も伝わります。

「あっ、あの時の方ですね。」子供たちを見守り育てる地域が互いの顔が分かる挨拶で溢れるために頑張ります！

久しぶりに子供の頃を思い出しましたし、子育ての大切さを改めて感じました。自分が親から言われた言葉の中で嫌な言葉を感情的になったときに我が子に言っていることに気付いてハッとしました。

お話を聞くだけのつもりが授業体験ということでかなり緊張しました。自分のことはさておき子供に「なぜ、もっと手を挙げないの。」「もっとはっきりしゃべって思いを伝えて。」等言っていました。自分の子供の頃を思い出し、かなり反省しました。上手に励ましたいです。（自分と子供の性格が似ていることにも気付きました。）

家では、自分の考えで動いていますが、他の方の考え方を聞いて多面的・多角的に考えることの大切さを感じました。こんなに考えたのは久しぶりです。子供の人格形成はまず家庭からだと思うと責任重大ですが、勇気付けられるようにしたいです。

自分を見つめる時間になりました。

今回は、皆さんの親御さんの愛と、今、親としての愛を見つめてもらいました。自然体でできてしまうところが素敵です！

今回の道徳授業を楽しみにしていました。なので、絶対に手を挙げて発言しよう！楽しい時間にしよう！と考えていました。結果、とても心に残る授業でした！

「盗みをする子供と母親」を帰宅後読みました。きっと子供の頃読んでいたら深く意味も分からずに首切り役人に連れて行かれる場面を怖いと思ったと思います。今、母親となってこの物語を読むと「良かったね」と褒める意味は分かりませんが、息子が役人に連れて行かれる時、「母親は胸を掻きむしって悲しみながら、息子に付き添って…」と、ここまで悲しい気持ちになっている母親は、まったく息子を放置していたのではなく、母親も一生懸命の子育てで誰かの助けが必要なんじゃないかな…などなど、切なくなりました。題も「\_子供と母親」で子育ての中心は母親なんだな…とか、子供と接する時間が長い分、母親に子供の人間形成は任されているのかな…などと感じます。母親として責任が重いな…と落ち込んでいるのではなく、だからこそいろいろな人の話を聞いたり積極的に参加したり楽しそうにしたりしている姿も見せようとずっと思い、やってきました。

グループトークの時に皆さんが笑顔になっていたことから共有することで心が「楽」になると思いました。共有し合える場がもっと増えるといいなあ。クリーン作戦は共有の場なんだけどなあとも。

今回のグループトークでは、いろいろな考え方を共有でき脳がぐるぐる刺激され、少し賢くなれた気分です！（ホニ小）学校が親にとっても学びの場であることがもっと多くの保護者に伝わり笑顔の多い保護者がどんどん増え、子供たちに「大人って楽しそう」と自分たちの未来にわくわくするようになればいいなと思います。

前年度の公開講座で私は子育てに不安だった時、ホニ小の先生方数人がとても励ましてくださいました。この場を借りて…とても感謝しております。少しでも先生方のお役に立てる人になりたいです。自己満足にならないように…。また、息子には親としてそういう姿を見せたいです。

皆さんの心開いた言葉と子供が取り組んでいるふわふわ言葉は同じ。自分の姿に気付く珠玉のメッセージがあります！

今回はお話を聞くだけではなく参加型でその場に参加した方々と話し合うこともできてより情報交換や考えを深められて得るものがありました。

子供が健全な中で育っていけるのが理想ではありますがこの世の中、私たち大人が育ってきた環境とは全く違ったものになっていて良い面もあれば悪い面もありその子自身が生き抜く力を持つよう周りの大人がやはり、良い情報は共有し教えていくのが大切かと思えます。

私が最近読んだ本の紹介ですが、コーチングに似ていますが、『子どもの「逆境に負けない心」を育てる本 楽しいワークで身に付く「レジリエンス」』（法研 足立啓美 他3名）

今、この時代だからこそその生き抜く力を持つことや自分の考える癖を知り、自分で対処する力を持つ等、題材としてお薦めですし、講師の方を呼んでいただけたら話を聞きたいですし、子供たちにも聞かせたいです。

このように保護者、PTA、おやじの会、育成会、運協、児童館等の発信でも、大人も子供も学ぶ学校でありたいです！

日々、子育ての中で我が子にどのように道徳、常識等を教えていけばいいのか、親自身が判断に迷う場面が多々ありましたので、考え方のきっかけや参考になるものが得られたらと参加させていただきました。

「ブラッドレーの請求書」のお話は、丁度家で子供に小遣いをあげるときに家の手伝いを条件とするかどうか考えていたのでとても考えさせられる内容でした。また、話し合いの場でも参考になる意見を聞かせていただき、為になりました。

有意義に時を過ごせたのは皆さんの“課題意識” “学ぶ姿勢” “開かれた心” 等のおかげ。一体感、達成感があります！

道徳授業地区公開講座に参加させていただき大変有意義なひとときになりました。

イソップ物語一つ目の万引きをする子供とそのことを褒める母親の物語では、親子の在り方がぎゅっと凝縮して表現されているような印象を受けました。母に褒められた行為は子供にとっては母から認めてもらえたこと、つまり、正しいこととして植え付けられ、例え、成長とともに環境が変化し、様々な人との交流があったとしても、その根底には「母の教え」としてその子供の人格を形成する基盤になるのだというメッセージが込められていると思いました。母として耳を噛みちぎられる日が来ないように何気ない日々のやりとりの中でも言動に気を付けようと背筋が伸びる思いでした。

そして、二つ目の物語では、まず我が子が同様の請求をしてきた際、私ならば、手伝ってくれたこと、練習に励んだことは大いに褒め、子供銀行ならぬ紙のお札を用意して渡し、おそらく納得がいかず反論してきた子供たちに一方的に請求するのではなくルールを決めた上でのビジネスが成立するのであれば、決めたことに従うと考えました。話し合うことが必要だと思ったからです。

ディスカッションできたことで他の方々のご意見お考えに触れる機会に恵まれ目から鱗でした。

物語の母親は高額請求したのでは？と、全く逆のことを予想した自分自身が恥ずかしくなると同時に大切なことを教わりました。これからも、無償の愛を注ぎ続けたいです。

「ブラッドレー（教科書では、お母さん）の請求書」は、4年生の教材で、子供の立場から考え、議論しています。同じ教材を、親子それぞれの立場で議論するとさらに“深い学び”になることでしょう！

日曜日の朝、ブラッドレーはお母さんに一枚の紙切れを渡しました。

#### 【ブラッドレーの請求書】

お使い賃… 1ドル  
お掃除賃… 2ドル  
音楽のけいこにいったご褒美… 1ドル  
合計・・・ 4ドル

お母さんは、にっこりと笑って何も言わなかった。

お昼のとき、お母さんはブラッドレーに4ドルのお金を置いておいた。

ブラッドレーはそのお金を見て喜んだが、そのお金と一緒に一枚の小さな請求書があった。

#### 【おかあさんの請求書】

親切にしてあげた代… 0ドル  
病気の時の看病代 … 0ドル  
服や靴、おもちゃ代… 0ドル  
食事代、部屋代 … 0ドル  
合計・・・ 0ドル

これを読んだブラッドレーは母親のところへ駆けていき、「お母さん、このお金は返します。そして、お母さんの為に何でもさせてください。」と、言った。

校長先生はいつも笑顔で、見ていて気持ちが良いです。 365日。家庭道徳に心がけます！！

素直にありがとうございます。なぜなら、子供たちや皆さんの笑顔が私のスマイル源なのです！ 365日宣言は心強い！！